春夏秋冬

武蔵野会ニュース No. 144 平成24年1月5日
発行社会福祉法人武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509
http://www.musashinokai.jp/

週1回の楽しいリトミック
（練馬区立光が丘福祉園）

トーク 福だまり

「福だまり」とは、日本福祉大学の学生達が地元の醸造会社の協力により開発して売り出した、「のせて食べる」醤油の商品名です。昨秋、同大学の学長が法人本部に来訪された折りにお土産としていただきました。知多半島の香りがする、とても味わいの深い逸品です。

当方からは、洋風のセンスも加味された美味しさがあり、容器やラッピングもお洒落な、烏山福祉作業所の自主生産品の和菓子をお渡ししましたが、手づくり商品の思わぬ交換会となって、話に花が咲きました。

大量に流通する一般の商品に伍して、このような福祉関係の手づくり商品が一定の利潤を上げていくのは大変ですが、同大学の学生達は生産からマーケティングまで、生きた経済の勉強を兼ねて、楽しみながら取り組んでいるようです。

武蔵野会の就労支援関係の各施設も、さまざまに工夫をして自主生産品の開発と販売に積極的に取り組んでいますが、これらの効果は多岐にわたっています。

利用者の方々の仕事のやりがい、工賃アップ、一般就労に向けた衛生面のスキルや接客マナーの習得、等々。完成した商品を一人で納品に行く試みの支援実践報告もありました。施設内や地域の売店等での販売で、地域住民の方々との交流も深まります。八王子福祉作業所が売り出した生キクラゲは、一般紙やコミュニティ紙に取り上げられたこともあって、市民の方々の注文がとても多いそうです。

お菓子などの食べ物だけでなく、木工品や和紙の名刺、陶芸品、織物など、一般の商品に負けないハイレベルで、しかも安心、安全な素材や手づくりの温もりがうれしい、施設の自主生産品を大いに活用していただければ幸いです。

社会福祉法人武蔵野会 理事長　上野　純宏

新年挨拶

理事長　上野純宏

国や自治体の深刻な財政危機の一方で展望の見えない財源対策、規制緩和による新しい事業主体参入の議論、入所施設のあり方等に影響が大きい障害者福祉新法の行方など、社会福祉法人の経営には引き続き緊張が強いられる一年になりそうです。

今年は、法人の第3期中期計画がスタートする年でもありますが、昨秋来訪されたブータン国王のお話にあった、経験を食べて成長する龍のように、武蔵野会のこれまでの実績とみんなの知恵を出し合って、適切に対処していきたいと存じます。

今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

支援の輪を広げ 支援の継続を願う

武蔵野会後援会
会長　石谷　暢司

昨年3月の東日本大震災は私たちに多くの教訓をもたらしました。被災された方々への奉仕活動や物心の支援、人と人との絆を大切にする心が芽生えたことなどでした。

後援会の活動も約40年続けられています。昨年は厳しい経済環境にもかかわらず、会費、協賛金、一円五円、使用済み切手、募金箱の募金とベルマークなど、温かいご支援を戴き深く感謝申し上げています。現在、エプソン、キャノン、ブラザーのインクカートリッジの回収活動を進めています。

皆様のご支援が武蔵野会の運営の一助に役立てられています。なにとぞ多くの方々に支援の輪を広げていただき、支援の継続に一層のご協力をお願いいたします。

法人役員挨拶（順不同）

【理　事】

青木　昌子

昨年は、東日本大震災により、東北・関東地方は未曾有の甚大な被害を蒙り、それによる混迷の期間があって、復興はこれからです。

武蔵野会は本来の支援事業を全うしながら被災地支援と被災した障害者施設へ職員を派遣し、さらに、それを継続してきました。これはまさに当法人の理念の実践です。今年も理念の実践追求に努める武蔵野会を応援いたします。

廣本　肇

百歳になりました日野原重明先が「いのちとは自分の使える時のことです」と言っています。七十九歳になる私、後どのくらい使える時間があるのか知りませんが生きることへの感謝を込めて新年の挨拶とします。年齢は気にするものでなく楽しむものです。

職場では褒め合う環境を作る約束をし、良い一年であるように。

渡辺　瞭

昨年2月5日、葛飾地区事業所の実践事例報告会に出席。次々に登壇して堂々と発表する五人の弁士の情報にあふれた語り口に実践を通しての〈気づき〉それに対応するための創意工夫への努力、先輩や仲間のアドバイスなどを経て自分たちの「夢」や「思い」を「真の知識」に昇華させた見事な実践。武蔵野会職員に若々しい息吹を感じ安心しました。今年も良い年になることを確信しています。

むさしの武蔵野

つながってこそ人間 平等に支え合う社会を

東京都人権啓発センターが発行している情報誌『TOKYO人権』2011年冬号に、医師で探検家、文化人類学の研究者でもある関野吉晴さんのインタビューが載っています。アフリカで誕生した人類がユーラシア大陸を経て、遙か南米大陸で拡がっていった5万キロの道のりと遠大な歴史。それを遡って旅する「グレートジャーニー」で知られる関野さんは言います。

「お金でも物でも、一部の人だけが蓄えを増やしていく社会は、いつか滅びます。……人類の歴史上、助け合う社会だけが生き延びることができた」。「生きるということは、人とつながること」であり、「（人は）物を蓄えることで生き延びようとするのでなく、人とつながって支えあうことで生きているんです」

全世界の先住民社会を股に掛け、実際に交流しながら悟った思想だけに重みがあります。

関野さんは医師として東日本大震災の被災地への医療支援にも従事します。そしてそこでも、「人はつながってこそ生きられるんだ」と実感。東北の人たちは物資

青木　秀雄

職員各位の日夜のご尽力に厚く感謝しエールを送ります。本年も、隣人愛と深い洞察をもって業務遂行を遂げてください。

東日本大震災後、浮かれていた日常生活から我に返り、人生に何が本来大切なものがわかったような気がします。生活の質の重要性が再認識され、福祉社会にとってよりよい環境が拓かれることを念願します。

村山　悦正

昨年は3月11日の東日本大震災以降、「絆」の一文字によっていやされる一年でしたが、近頃は風化が危惧されているそうです。絆の単語は、日本人の心に宿る恩愛・情実が原義とされております。

被災地の復興、復旧のためにはこのいつくしみ、まごころを忘れずにこの一年間行動することと信じ、新年の誓いといたしました。

中島　通子

障害者基本法の改正をはじめ障害者虐待禁止法の成立、障害者総合福祉法（仮称）の検討など障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備が進んでいます。それを障害者の権利擁護に活かすのは、職員一人ひとりの意識と行動にかかっています。悩んだり迷ったりしたときには、法人の理念・行動規範に戻れば間違うことはないでしょう。

高橋　信夫

国益と人類の益が共通すれば良いのですが、昨年の世界の情勢を垣間見ると、共通というより相反しているようで、私としては科学の進歩では世界は救われないことははっきりしたような気がしています。人類の向かう道が定まらない時代ですが、福祉が人類の大きな課題なのは間違いなく、社会福祉法人の果たす役割はますます大きくなります。

【監　事】

谷口　健吉

昨年の12月15日に、仙台から大船渡に移動する途中、陸前高田を通りました。とにかく、瓦礫の山だらけで、そのひとつに消防士と思われる人たちが放水活動をしておりました。瓦礫が自然発火しているそうです。病院やホテル等の鉄筋の建物は残っていますが、4階部分の窓が壊れている様子が津波のものすごさを語っていました。そんな中、土台の無い木造建物がポツンと…。「どこからか流れて来たのでしょうが、所有者が分からないので、片付けられないのですよ」と、地元の方の話。震災から9ヶ月も経っているのに「なぜ？」と、怒りさえ覚えました。

幸せな私たちは、もっともっと社会に貢献しなければなりませんね。

春日　完和

各施設から届く広報紙の写真や紹介記事などから施設訪問時に見聞して印象に残ったことが更に強く印象付けられることがあります。「こげら」最近号表紙から、Aさんの、最初の訪問時の施設長との会話とその後の夏祭りでの開会宣言を思い起こし、Aさんが「心の目」で感じ取ろうとしているしぐさ・表情に感動を覚えました。

※役員には以上のほか、金森　仁理事、今坂康志理事がいます。

を争うことなく、地域コミュニティの助け合いの中で窮地を脱しようとしていたそうです。

それでも現実には、震災当日の津波被害に際して、また仮設住宅への入居後の状況の中で、障がいのある人や高齢者、病弱な方など「災害弱者」への対応という大きな問題が顕在化しています。

極限状況下では社会的に弱い立場の人たちが真っ先に被害を被ります。けれども関野さんが言うように、どんな時でも一人ひとりの存在が平等に重んじられ、皆が「つながって支え合う」共生社会こそが本来の人間の姿であり、福祉の原型ではないでしょうか。

これからの障がい福祉を方向づけることになる障害者総合福祉法の骨格提言（昨年8月）の結びにこうあります。

「ある社会がその構成員のいくらかの人々を閉め出すような場合、それは弱くもろい社会である」

武蔵野会の「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」の実践の延長上に、この結びの一文とは正反対の社会をいかに具現化していくか、私たちの日々の取り組みが問われています。

第2大島恵の園
施設長　金澤正義

年頭のご挨拶を申し上げます
明るい年となりますように祈念いたします

社会福祉法人武蔵野会職員一同

武蔵野児童学園
施設長　上林　悟

すぎな愛育園
施設長　山田貴美

八王子市心身障害者福祉センター
所長　龍原敏勝

希望の里
施設長　山内ゆきみ

八王子福祉作業所
施設長　森　直貴

八王子生活実習所
施設長　山内哲也（本部次長）

大島恵の園
施設長　多々良康子

第２大島恵の園
施設長　金澤正義

さくら学園
施設長　安田喜人

法人本部
理事長　上野純宏　　係　長　津川志帆
本部長　高橋信夫　　事務員　田代孝代
次　長　中山政夫　　事務員　宮城まどか

練馬福祉園
施設長　中島通子

練馬区立大泉町福祉園
施設長　木村文孝

練馬区立北町福祉作業所
施設長　川野文幸

練馬区立光が丘障害者地域
生活支援センター「すてっぷ」
所長　石野哲朗

練馬区立光が丘福祉園
施設長　松岡利明

西水元あやめ園
施設長　吉倉美佐子

東堀切くすのき園
施設長　岡部智彦

白鳥福祉館
施設長　福元　與

きね川福祉作業所
施設長　須永　正

世田谷区立駒沢生活実習所
施設長　宮原康輔

世田谷区立烏山福祉作業所
施設長　横尾泰朗

世田谷区立世田谷福祉作業所
施設長　野々村武志

世田谷区立九品仏生活実習所
施設長　村山俊彦

小平福祉園
施設長　大島安彦

千代田区立障害者福祉センター
施設長　大和田　卓

ニュースラウンジ

待望の浴室完成

西水元在宅サービスセンター

当センターには今まで入浴設備がないため、特別養護老人ホームの浴室を利用しながら、入浴サービスを実施しておりましたが、利用者の皆さんの要望に応えるには十分な設備とはいえませんでした。

そのため葛飾区の大規模修繕補助事業の申請を行い、今年度の補助金交付が決定となり、工事を行なうこととなりました。9月下旬から11月にかけて約2ヶ月の工事期間、どのような浴槽が出来るのか利用者の皆さんと一緒に期待に胸を膨らませていました。

新しく設置された浴槽は、一般家庭にある浴槽と同じほどの大きさで、機械で操作を行います。車椅子の方も利用していただける浴槽ですので、今後多くの方に提供していきたいと考えています。

入浴の開始日には利用者の皆さんと開設式を行い、多くの拍手をいただきました。今後も利用者の皆さんが、安心で快適な入浴が出来るよう、新しい浴槽と共にお手伝いしていきたいと思っています。

車椅子の方も利用できる小型機械浴槽

就労移行支援事業の展開

北町福祉作業所

北町福祉作業所から徒歩10分のマンション1階を出張所として、5月1日より就労移行支援の事業を開始しました。

この事業は一般就労等を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適性に合った職場への就労等見込まれる者を対象とします。

現在、パウンドケーキ、クッキー作り、喫茶店を活動の柱にし、就労活動を展開しています。

サービス内容は、一般就労等への移行に向けて、事業所内や企業における作業や実習、適性にあった職場探し、就労後の職場定着のための支援。通所によるサービスを原則としつつ、個別支援計画の進捗状況に応じ、職場訪問等によるサービスを組み合わせた支援。利用者ごとに、標準期間（24ヶ月）内での利用。となっています。

接客の実習を兼ねた喫茶店

施設あれやこれや

世田谷区立駒沢生活実習所

世田谷区の「地域の絆推進事業」として「小泉公園ふれあいフェスタ」が10月に開催されました。今年から実行委員会に参画し、各市民団体と共に地域の活性化を目指しています。

大泉町福祉園

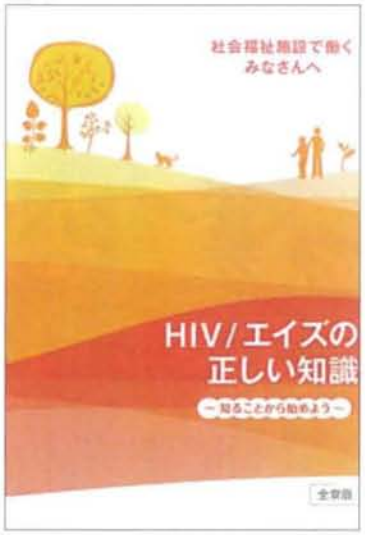
近隣の大泉北泉町会様より菜の花のプランターを、また隣接する野球場の常連様よりパンジー他、沢山の花をいただきました。冬になると殺風景になりがちなアスファルトの園庭の一角で、可憐に咲く花々が目を楽しませてくれます。

光が丘福祉園

12月13日にパフォーマー・パーツさんをお招きし、地域とのより良い関係作りの一環として地域交流会を開きました。近くの保育園の園児や住民の方が来園し利用者と一緒にパントマイムのすばらしい演技をみて楽しいひとときを持つことができました。

さくら学園

静岡県授産施設作品コンクールが毎年11月に行われます。今年は陶芸班の鉢（つる付きなんでも鉢）と織物班のバック（親子仲良しお出かけバック）が揃って、静岡県社会福祉協議会会長賞を受賞しました。



「HIV/エイズの正しい知識」を作成、配布

武蔵野会では社会貢献の一環として、厚生労働科学研究費エイズ対策研究事業における「福祉施設におけるHIV陽性者の受入れ課題と対策について」の研究を行ってきました。このほどその成果として「～社会福祉施設で働くみなさんへ～HIV/エイズの正しい知識」という小冊子を作成し、全国7500の社会福祉法人に配布しました。現在、大変な反響で武蔵野会に問い合わせが多数寄せられています。

HIV/AIDSが発見された当時は、治療法もなく死の病気といわれていましたが、医学の飛躍的な進歩により今では慢性病の一つになりました。HIVの感染力は極めて弱く、日常生活の中で感染するリスクは非常に弱いのにも関わらず誤解と偏見の中で、時々旅館やホテルで宿泊拒否があったりします。残念ながら医療や教育機関、福祉施設も例外ではありません。この小冊子によって全国の福祉施設がHIV感染を理由に入所や利用を拒否することがない地域社会づくりに貢献できれば幸いです。

職員のメンタルヘルス
施設長看護師合同研修

12月15日、飯田橋にある「家の光会館」のセミナールームに法人の看護師と施設長が一同に会し、合同研修を行いました。

午前中は、「職員のメンタルヘルス」について、東京女子医科大学の精神医学の坂元薫教授に講演していただきました。坂元教授は、気分障害や不安障害の臨床研究、臨床精神薬理が専門で、特にうつ病については日本を代表する臨床研究者として、医師や看護師などの専門家を中心に数多くの講演を行っています。今回の講演内容は、うつ病の遷延化の要因の説明（薬物治療への抵抗性、不安障害の併発、職場環境、家庭環境など）や、これまでのうつ病と、現代の若者によくみられるうつ病（「現代型うつ病」）との違いや対応方法の違いについてで、事例を示しながら、また、映像や音楽を用いて、わかりやすく、興味の尽きない講演でした。

午後からは、当法人が作成した小冊子「HIV/エイズの正しい知識」を読み合わせました。法人の感染症マニュアルにHIVを加えること、HIVに罹患していることを理由に利用を断らないこと、また、スタンダードプリコーション（標準予防策）を守れば、受け入れに全く問題は無いことなどを確認しました。

うつ病は「見えない病気」だからこその治療と理解の難しさがある

八王子福祉作業所

当作業所で作っている焼き菓子「マフィン」に、昨年度から生産を開始した「生きくらげ」をコラボさせた「きくらげマフィン」を発売しました。ソフトな生地の中にきくらげのコリコリ感が絶妙です。ぜひご賞味下さい。一つ百円です。

生活支援センターすてっぷ

障害者の生活が広がるにつれ、誤解からトラブルにといった相談も増えているので、すてっぷでは「安心カード」の発行を開始しました。説明が苦手な方のための緊急連絡カードで、少しずつ発行希望者が増えています。

きね川福祉作業所

念願の施設車両を購入しました。これまでは、必要なときには近隣の武蔵野会施設からお借りしての活動でした。今後は作業活動はもとより、個別化に対応した、きめ細かなサービスの提供のために使う予定です。

大島恵の園

対岸にくっきりと富士山を臨む好天日となった12月4日、「大島町ふれあいまつり」が開催されました。大島地区の両園では、かご編みや石鹸作りの体験コーナーを行い、町中から集まった約450人の地域の方々と楽しく賑やかな交流の一日を過ごしました。

街頭募金活動

赤い羽根共同募金

歳末の恒例の赤い羽根共同募金の街頭募金活動を法人内の各地区と事業所毎に行いました。

世田谷地区の九品仏生活実習所は12月5日に尾山台駅前で募金活動を実施しました。

八王子地区では6施設で12月9日と16日に分かれて八王子駅前で行い、武蔵野児童学園の小学生11名も参加して、可愛い募金の呼びかけに多くの人が足を止めて、募金に協力してくれました。

九品仏生活実習所職員の募金活動

お知らせコーナー

1月

4日　新年会・成人を祝う会（北町福祉作業所）
6日　新年会（東堀切くすのき園）
6日　成人式・新年会（九品仏生活実習所）
7日　新成人を祝う会（東堀切くすのき園）
9日　大島町成人式
13日　新年もちつき会（北町福祉作業所）
13日　新成人を祝う会（大泉町福祉園）
13日　新年会（駒沢生活実習所）
13日　新年会（世田谷福祉作業所）
23日　法人虐待防止研修
26日　第246回理事会（法人）
28日　新春の集い（千代田区立障害者福祉センター）
29日　退園生会（武蔵野児童学園）

2月

3～5日　KOMA展・作品展（駒沢生活実習所）
6日　練馬地区支援実践報告会
19日　カメリアマラソン参加（大島地区）
22日　施設公開（大泉町福祉園）

3月

2日　春の集い（駒沢生活実習所）
11日　東社協福祉マラソン大会参加
18日　壮行会（武蔵野児童学園）
26～28日　法人新任職員研修

ショーケース

自主生産品紹介

白鳥福祉館の巻

住所
〒125-0063
東京都葛飾区白鳥4-8-1
電話　03-3604-0034

白鳥福祉館はなちゃyaの自主生産品の一つに七宝焼きがあります。クリスタルな発色と色彩が魅力の七宝焼きは、銅板のカット、磨き、裏引き、色盛り、焼成と完成までにいくつもの工程があり、集中力と持続力の要求される作業です。現在五名の利用者の方が従事されています。葛飾柴又にある寅さん記念館オリジナルの寅さん根付けをはじめ、製品はすべてはなちゃyaオリジナルで、季節毎に多彩な品揃えです。毎年変わる干支根付け、今年は龍。単純化に苦労したデザイン、いかがでしょうか。

七宝焼き担当は職人技

可愛く仕上がった龍の根付け

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と4つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX　042－626－9772